



# “学びの森”だより

## 失敗から始める

もし今、あなたと私が向き合っているとします。

- ①私が一枚の画用紙を持ち出します。きれいな、まっ白な画用紙です。
- ②私が、びりびりに数枚ほどにちぎります。  
(元に戻すマジックではありませんよ。)
- ③次に、そのうちの一枚を、そっと、あなたに差し出します。
- ④そして、「この紙に、何でもいいですから描いてください。」と言います。



さて、あなたは何を感じますか。以前ある学校の先生に同じことをしました。すると、「えっ。」という顔をしました。「失礼なことをするなと思いましたよ。」と言われました。ごもっともなことです。ごめんなさい。

しかし、話はここからです。「すみません。で、好きなように描いてください。」と改めて言うと、ニコちゃんマークのような絵を描いていました。「どうしてそのような絵を描いたんですか？」と尋ねると、「どうせ破れた紙なので、好きなように描きました。」「なるほど。で、どんな気持ちですか。」「何を描いてもいいとも思いましたので、ちょっとふざけちゃったかな。」「で?」「自由に楽しかったです。」

先日、南小学校で日本画家の「千住博先生」による授業がありました。このとき、先生は、まっ白なきれいな和紙を取り出し、わざと、くちゃくちゃにしました。もちろん子どもたちは、「えっ。」という顔をしました。次に「何をやってもかまわないよ。」「もうみんな、好きにしてくれえ〜(言われてみたいものです。)」と叫びました。「で、ひらめいたことをやってね。」

さらにつぶやきが続きます。「失敗も成功もない。」「だいたい世の中は、上手くいかないものさ。だいたい失敗さ。」「紙に貼り付けてもいいよ、そしたら立体だね。」「真っ黒もいいね〜、抽象絵画だね。」「なんだか魚に見えてきたね〜」「そしたら計画変更。」「やってみて、だめならやり直せばいいじゃん。」「今日は楽しもう。」こんなことを言われると、気持ちが実に楽です。子どもたちは、自由を得てのびのびです。

「迫力あるね〜」「台紙に貼ってみようか。」「ちょっと、動かしてみようか。」「とにかくやってみようか、イメージがわいてくるかもね。」子どもたちは、自分の世界にはまっています。思いを自由に表現できること。縛られずに自由に表現できること。「ばえ」を気にせず表現できること。のびのび表現することの喜びを感じていました。

自由なだけではありません、「ぼくで良ければアドバイスするよ。」「困ったら手助けするよ。」もちろん、どこがすばらしいのか、子供は何をしようとしているのか、あくまでも主は子どもたちで、主を邪魔しない的確なアドバイザーに徹しています。そのために、子供の話を一生懸命聞いていました。一緒におしゃべりしていました。共感とはこういうものかと知りました。

この授業を見て、学習指導要領の図画工作・美術の教科としての目標について改めて問い直してみました。そこには「つくり出す喜び、創造活動の喜びを味わう。」とあります。はたして、一番大切な教科としての目標はどうであったのか。そこなくして、題材(単元)も本時ありません。子どもたちは心から喜びを味わっているのでしょうか。

もしかすると、創作活動の喜びを奪ってしまうものがあるのではないのでしょうか。奪ってしまうようなことを授業でしているのではないのでしょうか。過去の自分を見て、反省しきりです。何が邪魔をしているのか、考えてしまいました。

#### ①写実主義

これが悪いのではなく、それにとらわれすぎているかもしれません。子供は小さい頃は、のびのびと描いていたはず。ところがいつの頃からか、写真のような描き方がすばらしいこと、写真のように描けることが、図工美術に秀でていること、そのような作品が賞に入りがちなこと。そうした作品を「きれい、すばらしい」と賞賛していたこと。だから、時間がないからといって、デジカメで写し取ったものを作品にしがちかもと思います。そこには、自分がありません。みんな同じです。芸術とは、内なる感性の表現・デフォルメなはず。

助手の方が、「大切なのは、パッションが伝わってくることです。夢中になった作品は、雑であっても、情熱が伝わってきます。それが一番大切なんです。写真のように、みな同じではいけないんです。」とおっしゃっていました。なるほどです。「ばえ」ではありませんでした。

#### ②きれいな紙 汚せない

出だしの文章がまさにこれでしょうか。きれいな紙を渡されると、たいていの子、苦手な子は、たまらないプレッシャーです。だから、絵が小さく萎縮してしまうのでしょうか。無難なものになってしまうのでしょうか。ましてや、はみ出すなんてもってのほかなんでしょう。失敗はしたくありません。しかし、そこに喜びは味わえませんよね。これは、目標と180度反対です。

今回は、くちやくちやくから始めました。失敗からです。でも、とにかく授業では、当たり前のように、きれいな画用紙を配っていませんか。できあがったあとに、台紙に貼ればいいだけのことでした。

#### ③主体的とは「自由」

自由に選べる、自由に作れる。だから主体的になれるのでしょうか。図工・美術では、絵画・デザイン・立体などと区切って創作活動をしがちです。自由などありません。今回の「何をやってもいい。」これが大切なんでしょう。

助手の方が「美術は比べることではない、ユニークなものに出会うことのすばらしさです。」と、おっしゃっていました。何をやってもいい、それが大切なことを知りました。

#### ④コミュニケーション

どんなアドバイスができるのか、どんなお手伝いができるのか、そのためには、思いを共感すること、とにかく対話を大切にすること、おしゃべりをする、しゃべり終わったら、後は任せる、本人が申し出たら手助けをすることでした。

ただし「上手だね。」「うまいね」は禁句、でなければ、写実にもどってしまいがち。大切なのは、「楽しいねえ」「おもしろいね～」と共感し、子供を理解し、一緒に楽しむこと、一緒に創作活動の楽しさを味わうことでした。極端かもしれませんが、そこには、評価と指導はありません。評すること導くことなんかありません。

私は今まで、きれいなもの、美しいもの、常に「ばえ」を意識していたかもしれません。コンクールがあればなおさらです。それって、教師側の思いだけかもしれません。子供は、純粹に楽しめていたのか、改めて考え直すにはいられませんでした。  
(文責 松山充彦指導員)

編集・発行：“学びの森”

〒410-1102 裾野市深良 435 番地

TEL : 055-995-4903

FAX : 055-995-4904

<http://www10.schoolweb.ne.jp/weblog/data/224000>

